

病院移転に伴う病床機能転換概要報告書

1. 病院名： 医療法人 大久保病院

2. 所在地

移転前 加須市砂原286-1

移転後 加須市北下新井字上堤外1656番 他4筆（大利根総合支所西側）

3. 概要

移転前 病床機能区分	移転後 病床機能区分	開設 年月日
急性期 慢性期	慢性期	2022年4月

<病院全体>

移転前		移転後	
許可病床数：	89床	許可病床数：	89床
(病床の種別) 一般	43床	(病床の種別) 一般	床
療養	46床	療養	89床
(病床機能別) 急性期	43床	(病床機能別) 急性期	床
地域包括ケア	床	地域包括ケア	床
回復期リハ	床	回復期リハ	床
療養	46床	療養	89床

4. 提供する医療の内容

【移転前】

旧大利根地域唯一のケアミックス病院として、一般内科、整形外科患者等の入院と他急性期医療機関からの療養目的患者を受け入れておりました。

【移転後】

病棟は、全てを療養病床とし、近隣急性期医療機関からの慢性期患者の受け入れをするとともに、外来診療は従来通り、内科、整形外科を中心に診療を行い、入院及び手術等を要する患者は、近隣急性期医療機関を照会して医療連携を図ります。

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

利根医療圏における2025年医療計画では、慢性期は2017年より若干の不足が生じる見込みとなっていますが、圏域では慢性期から病床機能を転換した病院もあります。地域における機能別病床のバランスが重要であり、当院は、慢性期患者を受け入れる病院として地域医療ニーズに貢献したいと考えています。

○新たに担う役割

高齢化が一層進展する中、急性期病院退院後に回復期リハビリテーション病棟や在宅医療の充実により、自宅復帰の確立も増える一方、核家族化及び単身世帯も増加傾向にあり、自宅復帰もままならない患者がいるのも現実です。当院は、回復の見込みが薄く、医療行為も引き続き必要な近隣急性期病院からの患者を受け入れる病院を目指します。

○将来の方向性

移転後も地域貢献を第一に病院機能を充実させていきたいと考えております。

○移転理由

当院は築38年が経過し、建物の老朽化が進み、建替えの時期を迎えておりましたところ、国の法律（水防法の改正）により避難計画作成が義務付けられました。

病院は、基本的には垂直避難が望ましいところですが、当院は2階建てであり、水害ハザードマップによると5m～10mの水深地域に立地していますので、避難行動マップに基づき避難行動しなければなりません。

しかしながら、担送患者が多数入院している中、入院患者の避難は困難な状況にあります。

以上の状況から、現在地での建替えを断念し、県の開発許可を得て移転することを計画したものです。

